

# ほたるっ子



磐梯第一小学校  
学校だより  
NO. 42  
R5. 6. 30

ドリーム&チャレンジ! ~あいさつ・はっぴょう・なかまとじぶん~

(文責:校長 菅家 篤)

## 巫女舞を体験しよう ~3年生の総合的な学習~

3年生は、今、総合的な学習の時間に磐梯神社の巫女舞について学んでいます。

「磐梯神社の巫女舞」は、本寺地区の方々により継承され、春彼岸の中日に行われています。「巫女舞」は、女の児が舞手となり、太鼓、小太鼓、つづみ、笛は大人が受け持ちます。舞は三つの舞で構成され、最初の舞は「榊(さかき)の舞」、続いて「弓の舞」「太刀の舞」が奉納されます。磐梯神社の巫女舞は、舞い手4人が方形になることや、採物などから、地方に点在する舞楽に類似する点が多いようです。また、舞い手が左回りに一周し、その後右回りで元の位置に戻る様式から見ても、古い舞楽の系統をひくものではないかと言われています。

講師を務めてくださっている鈴木雄一郎さんにお話をうかがうと、現在、巫女舞の後継者不足が課題とのことでした。総合的な学習で巫女舞を学んだ子どもたちの中から、巫女舞に携わる子が現れてくれたらいいなと思いました。



### ◆シリーズ⑤最終回◆ 枠組みを機能させる親の努力(コーチ)

《コーチ(親)は子どもに代わってプレーしない!》



自分で靴をはこうとしている幼い子どもは「自分で靴をはく」という一大イベントの主演です。最初はうまくいきません。そこに脇役であるはずの親が現れ「ほら、さっさとしなさい」と履かせてしまうことで、仕事を横取りしてしまいます。このように、自分の仕事を横取りされることは、子どもの生活には多いのではないのでしょうか。ちょっと待てば、子どもにも十分できるのですが、早くしてほしい親は「早くしなさい」と言いながら自分でやってしまいます。

**子どもの人生の主演は子ども自身です。生きているのは子どもで、体験しているのも子どもです。**親にできるのは、やるべきことを子どもに見せ、できるようになるまで待つことです。そのためには、**子どもが幸せに生きられるよう「枠組み」を作り、その枠組みの中で子どものコーチになることです。**コーチは決して選手(子ども)に代わってプレーすることはありません。コーチの仕事は選手の才能を開花させることです。